

受理番号	受理年月日	件 名 及 び 要 旨	提 出 者	紹介議員氏名	付 託 委員会名	議決結果
3 年 第 9 号	3. 11. 24	<p>教育格差をなくし、子どもたちにゆきとどいた教育を求める 請願</p> <p>子どもたち一人ひとりに確かな学力をつけ、豊かな人間関係を育むためには、何よりもゆとりある学習環境として「少人数学級」が求められている。</p> <p>コロナ禍を契機に、子どもの安心な生活環境、安全な学習環境としての「少人数学級」の有効性を経験して、「30人以下の少人数学級」の実現が教育の最優先の課題であるという認識が広まり、世論になっている。</p> <p>このような情勢を背景に、文科省は、40年間続けてきた「40人学級」を改め、「本年度から5年かけて小学6年までを35人学級にする」こととした。これは一步前進ではあるが、国際的な水準からほど遠く、国民の期待からもかけ離れている。</p> <p>茨城県は「茨城方式」によって、35人学級を中学3年まで拡大し、子どもにも先生にも喜ばれている。この機会に、35人学級の中学校までの早期実現を国に求めるとともに、県独自の「30人以下学級」を目指す施策もすすめること。</p> <p>社会に広がる経済格差が、子どもの生活や学習に大きな影響をあたえ、子どもの進路を狭めている。県立高校の統廃合や学級削減ではなく、過疎地域の高校や定員割れの高校、定時制高校に対して、先行して少人数学級を実現すること。</p> <p>次の社会を担う子どもたちのために、教育予算の大幅な増額をお願いする。</p> <p>【請願事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教員を増やし、学校予算を増額すること。 2 小学校、中学校、高等学校の30人以下学級を早期に実現すること。 	<p>民主教育をすすめる茨城県民会議 代表 岡野 一男 外 1,562名</p>	<p>山 中 たい子 江 尻 加那 中 村 はやと</p>	<p>文教警察</p>	<p>不採択</p>

		<p>3 小学校、中学校、高等学校の機械的な統廃合をやめ、教育的な観点、地域の意見を尊重してすすめること。</p> <p>4 教育費の父母負担軽減、私学助成増額のために、教育予算を増やすこと。</p> <p>5 定時制高校の教育条件（教員の加配、学校予算の増額）を充実すること。</p>				
--	--	---	--	--	--	--